

# 2017 年度 事業報告書

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

## 1. 事業の概要

ここ数年、営利のリサイクルショップやネット販売、ファストファッションの台頭などの様々な影響でショップ事業が厳しさを増しています。事業型の認定 NPO 法人として、活動をより自発的に行うためには事業の安定が必須です。事業収益のアップはもちろんですが、チャリティショップの付加価値をどのようにアピールするか、ボランティアや活動参加をどのように増やしていくかの対策が急務です。

一方、リメイク連続講座や「みんなで憲法」など、関心あるテーマを企画したことで新たな参加を得られました。また、中学生の職業学習や地域連携の場(Yokohama 学校地域コーディネーターフォーラム、地域づくり PJ. ほどがや楽考)で、社会的な課題解決を目的とする NPO 活動をアピールし、地域参加への広がりとなり、共感を得られたことは嬉しい成果でした。平和で公正な社会の構築に向けて、これからも WE ショップを拠点に発信を続けていきたいと思えます。

## 2. 事業内容

### I 資源のリユース・リサイクルを推進する事業(リユース・リサイクル事業)

#### 1) WE ショップの運営

地域での資源循環の実践のため、年間計画をもとに、年間売上目標 720 万円を掲げて安定した事業を目指しました。貧困なくそうキャンペーン、着物フェア、フェアトレードフェアなど、チャリティショップという拠点を生かし様々な企画を開催しましたが、寄付品の質、量、寄付者数ともに低下し、特にリユース事業である衣類の売り上げが伸びず、目標達成には至りませんでした。目標を下回った企画に対しては原因の分析、目標額、内容の見直しを行い、レイアウトやディスプレイの刷新、効果的な広報活動など、マンネリ化打破の対策が課題です。

#### 【星川店】

売上:6,844,054 円(年間達成率 95% 前年比 97% 1 日平均高:29,761 円)

営業日数:232 日(月平均 19 日) 顧客数:7475 人(前年比 93%) 寄付者数:1321 人(前年比 99%  
新規 47 件) ショップボランティア延べ人数:520 人(前年比 96%)

- ①ショップスタッフ 3 人体制でショップ運営を行いました。毎月のスタッフミーティングで月の点検評価や課題などを共有し、対策を話し合いましたが、売上目標に達した月は 3 ヶ月にとどまりました。今年度、新しくボランティア 1 名が入りました。
- ②ショップに出す品物の質を上げるために仕分け・点検作業の向上に努め、在庫管理の徹底を図りました。
- ③リメイク作品コーナーは、季節に合った作品を並べるように努め、リメイク作品の管理業務の習得度もあがりました。
- ④建物の耐震工事の影響で、2 月に予定していた「着物フェア」を 3 月に開催しました。情報誌タウンニュースへの掲載、チラシやお得意様への DM の他、地域の大学の演劇部や近隣の着付け教室にも情報を届けるなど広報戦略に力を入れたことで、新たなお客様を拡大できたことは今後へつなげる成果です。寄付の

良品にも恵まれたことでたくさんのお客様に楽しんでいただき、売上目標額も達成。充実したフェアになりました。

- ⑤ハンガーをアイボリー色に変え300本用意したことで店内も明るくなり、衣類の数の把握も容易になって、入れ替えもしやすくなりました。
- ⑥昨年設置したインフォメーションボードを有効に活用するようにさらにアイデアを出していくこと、そして、今後は地域の自治会主催のイベントなどに積極的に参加して WE ショップのアピールにつなげたいと思います。

## 【天王町店】

売上:6,627,344 円(年間達成率 92% 前年比 98% 1日平均高:28,137 円)

営業日数:236 日(月平均 20 日) 顧客数:8340 人(前年比 105%) 寄付者数:1954 人(前年比 96%  
新規 75 件) ショップボランティア延べ人数:455 人(前年比 105%)

- ①ショップスタッフ3人体制でショップ運営を行いました。毎月スタッフミーティングを開催し、年間計画実施に向けて話し合って運営をしました。曜日によって 1 人になる時間帯があり、ボランティアの増員は引き続き今後の課題です。
- ②フェアトレードフェアを年 2 回(5 月、12 月)、アジアコーナーも設けて開催しました。フェアトレード品を広めるとともに支援を身近に話すきっかけとなりました。常設品についてはリピーターも増えています。フェアトレードコーナーのディスプレイや掲示の工夫と、より多彩で魅力的なフェアトレード品を揃え、地域に向けてアピールを強める必要があります。
- ③フェアトレードフェア、3・11を忘れない(3月)で、東北支援品を販売しました。販売に向けて、WE21 ジャパン・厚木荻野店へ見学に行き、有限会社ムラカミの紹介をしてもらいました(1/30 天王町店スタッフ+理事 6 人)
- ④シルクロード商店街主催のフリーマーケット(4月)に参加し、WEの活動をアピールしました。

## 【共通事項】

- ①ショップに飲料水とヘルメットなど非常用の備蓄用品を設置し、防火設備の定期点検の実施と緊急連絡網の整備を行いました。ボランティア親睦会でも確認を行いました。
- ②ショップ間で寄付品の循環を行いました。今後もショップ間の連絡を密にし、寄付品の量や傾向をみながら調整する必要があります。
- ③WE21 ジャパン・こうほく 大倉山店・日吉店の見学を行い、ディスプレイの参考にしました(9/30 星川店 スタッフ+ボランティア、理事 9 人)
- ④ショップ訪問の受け入れを行いました。 ※WE21 ざま(6/19 13人) WE21 みなみ(10/24 12 人)  
WE21 さむかわ(12/9 5 人) WE21 湘南エリアスタッフ(1/18 8 人)
- ⑤フェアトレード品販売における食品衛生関係営業許可を取得、食品衛生責任者の設置をしました(3 月)。
- ⑥橘中学校生徒職業学習(1/23 4 人)、岩崎中学校生徒職業体験(1/24~26 4 人)、就労支援(よこはま若者サポートステーション 1 人 ワーカーズコレクティブ協会 1 人)の受け入れを行いました。

\*2017 年度 企画の売り上げ実績\*

星川店

5月	花器&ガラスフェア	15~17日	22,528円	目標3万円
6月	お得市(陶器・ガラス・生地)	12~14日	18,468円	2万円
8月	夏セール	28~31日	340,484円	35万円
9月	アクセサリーフェア	11~13日	201,420円	20万円
10月	貧困撲滅デー	17日	44,490円	4万円
12月	歳末セール	4~8日	386,222円	35万円
1月	新春初売り	5日	97,028円	11万円
3月	3.11を忘れない	9日	16,180円	4万円
	創業祭	14~16日	290,501円	28万円
	着物フェア	20~22日	646,007円	50万円

天王町店

4月	春の感謝セール	24~28日	346,127円	35万円
5月	フェアトレードフェア	15~20日	56,887円	5万円
6月	アクセサリーワンコイン市	15~17日	32,639円	5万円
7月	創業祭	6~8日	311,931円	30万円
8月	ガラス食器市	1~8日	8,181円	1万円
10月	貧困撲滅デー	17日	26,930円	4万円
	アクセサリーワンコイン市	23~28日	15,228円	
11月	秋・冬感謝セール	20~25日	417,937円	30万円
1月	フェアトレード・フェア	4~9日	19,944円	5万円
1月	新春初売り	5~6日	172,870円	20万円
2月	春待ちわくわくセール	22~24日	252,273円	25万円

2)地域における環境保全の推進

(1)リメイク活動

貴重な寄付品の有効活用を目指し、2017年度もリメイクチームメンバーの創意工夫により、たくさんの作品が生まれました。 売り上げ 533,676円 (年間目標額 65万円) 年間達成率 82%

①リユース・リサイクル部会を隔月の定例開催とし情報の共有をしました。

②季節の変わり目に多く排出されるTシャツやスカート、ワンピース、和物など、ファイバーを再度活用し寄付品の有効活用、ごみ量の削減に努力しました。

③貴重な寄付品の有効活用として開催してきた体験講座は定着し、その成果を見ることができましたが、新参加者の減少、指導者の高齢化などの様々な課題を鑑み、講座の開催方法を検討しました。

与えられた材料からの作成でなく、布選びからの講座とし、ファイバーが大量に出る季節に合わせ、9月10月に「リメイク連続 WE 講座」を実施し、多くの参加を得ました。

※Tシャツを利用した布ぞうり作り 9/6(9人) 9/20(6人) 羽織を利用した上着 10/4(8人)、

10/18(6人) 綿シャツなどを利用したさきおり10/9(6人)、10/24(4人)

交流イベント(作品の共有と小物づくり) 2/17(15人)

④WE フェスタ秋(11/9 産業貿易センター)に参加し、リメイク活動のアピールの場としました。他地域との交流もできました。 リメイク品出品点数 86点 売上点数 25点 32,700円

⑤WE21 リメイク連絡会に参加し、他地域 NPO と情報を共有しました。

## (2)資源の有効活用、再資源化

販売できなかった衣類は、WE21 グループ提携先のナカノ(株)で再利用され、同社が開発したエコ手袋(よみがえり)を販売しました。ガラス・陶磁器についても、飯室商店、木村管工(株)を通じてリサイクルを行いました。

## (3)WE 油田

WE21 ジャパングループで進めている使用済み食用油の回収に取り組みました。回収が地域に知られるようになり、問い合わせも増えています。

回収量 星川店: 240kg(CO2削減量 624kg) 天王町店: 260kg(CO2削減量 676kg)

## (4)自然エネルギー社会に向けての取り組み

原発に頼らない自然エネルギー社会の構築に向けて、具体的な活動の実践はできませんでした。

【日時】 通年

【場所】 WE ショップほ도가や星川店・天王町店、その他保土ヶ谷区内

【従事者人数】理事・ショップスタッフ・リユース・リサイクル部会 15名 リメイク・ぞうり・さきおりチーム 12名

【受益対象者】 主に保土ヶ谷区内の市民

【支出額】 13,404,769円

## Ⅱ アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業(民際協力事業)

支援先の人々と連携し、NPO や NGO 等により入手した情報を発信し、平和への関心を高めました。

### 1)海外現地プロジェクト・国内において困難な状況にある人々への支援

主にアジア地域を対象として、草の根の市民の力を高めるためのプロジェクトの支援、また、国内において困難な状況にある人々への支援を行いました。

①支援先の情報を入手して、申請書、活動報告書、会計報告書の評価点検をしました(別紙:支援実行報告書)

②支援先及び助成額については、支援・平和チームで検討して理事会に提案し、討議決定しました。

③同じ支援先に助成している他地域 NPO と情報交換や学びの場をもちました。

④新たな支援先の検討はできませんでした。

支援先	プロジェクト名	助成金	寄附金	募金
BGA (ベンゲット・グリーン・アクション) (フィリピン)	フィリピン・キブンガン郡ルボ村での鉱山開発跡地の環境回復事業	250,000		
シェア(タイ)	タイ-ラオス国境地域における HIV 予防啓発及びケアプロジェクト	100,000		
地域女性ワーキング・グループ (カンボジア)	1.地域コミュニティと女性エンパワメントPJ. 2.ゆたかで幸福なコミュニティ(S3)の構築	100,000 100,000		
ジュマ・ネット	バングラディッシュとミャンマー国境におけるロヒンギャ難民への支援		50,000 襲撃事件 50,000 小屋付きトイレ設置	17,076 店頭募金
IYAMAN.INC (フィリピン)	レインボーキャンペーン (子どもたちにクレヨンを送るプロジェクト)		10,000	
認定NPO法人 幼い難民を考える会 (カンボジア)	みんなで布チョッキン (カンボジアの子どもたちの遊具作りのお手伝い)		11,850	8,150
JVC アフガニスタン事業 (アフガニスタン)	JVC アフガニスタン教育支援プロジェクト			44,268 アジア・友だち・みらい貯金箱 8 個
認定 NPO 法人 FoE Japan	福島ぽかぽかプロジェクト (福島の子どもたちの保養プログラムへの支援)		199,995 毎月 11 日の売上金の 30%、3 月 9 日 (星川)10 日(天王町)の売上全額	37,855 店頭募金
認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい	生活や人間関係において貧困状況にある人への自立支援		71,420 10 月 17 日の売上全額	3,364 チャリボン 8,799 店頭募金
寿支援者交流会(中区寿町)	横浜・寿町や野宿生活者と地域社会を結ぶ		物品寄付 (男性用防寒衣類、	

	ゆるやかなネットワーク		日用品 など)2回	
	合計	550,000	393,265	119,512

・書き損じはがき、使用済み切手、テレホンカードを寄付しました(アジア学院、WE21 ジャパンへ)

\*ベンゲット・グリーン・アクション(フィリピン)(キブンガン郡ルボ村での鉱山開発跡地の環境回復事業)

支援決定のポイント: 鉱山開発跡地での環境回復と生計向上に向けた当プロジェクトは、地域住民たちの大きな励みとなり、苗木場管理や植林への参加などを通してコミュニティの再生が進んでいる。特にWE21の支援による足尾での学びを活かして、行政との連携も進んだ。住民主体の環境回復事業が有効に持続的に実施されるためには継続的な支援が必要である。

\*シェア(タイ) (HIV/AIDSで生活するタイ、ラオス国境地域でのHIV/AIDS防止と人々のケアプロジェクト)

支援決定のポイント: 2012年の現地法人化に伴い、日本のNGOが撤退した中、タイ国内のNGO等への支援環境が整っていないこともあり、2016年以降の資金確保ができていない。タイ人により立ち上がったHEALTH AND SHARE FOUNDATION(HSF)(健康とシェア財団)の活動を続けられるよう継続支援とした。

\*地域女性ワーキンググループ(カンボジア)

(地域女性エンパワメント・プロジェクト/ゆたかで幸福なコミュニティ(S3)の構築: ミニ・プロジェクト)

1.草の根市民、特に女性のエンパワメントを支える活動であり、女性の視点から地域社会の問題を解決する契機となる。内戦によって破壊されたコミュニティの再建に寄与することができる。

2. 農産物の地産地消を通じて、地域の農家や人々がより多くの雇用と収入の機会にアクセスできるようになること、また、地域市場内で、農産物の生産、トレーダーと消費者による地域の生産物への広範な支援、生産者間の効果的な協力、生ゴミのリサイクル等の支援を通じて、地域の農家と関係者の収入を改善し、農家と地域の関係者の幸福な暮らしを確実にできることに期待して支援を決定した。

## 2)支援先メンバーの招聘事業、学び合う場の開催・協力

①支援先の報告会などに参加し、情報の共有や学びの場としました。

・インド DRCSC のチャタジーさん来日講演会「インド支援 11年の振り返りとこれから&カレーを作る会」に参加(5/31 2人)

・フィリピン IYAMAN INC のジエドさんが星川店を訪問、交流を行いました(9/13 4人参加)。

・カンボジア「ゆたかで幸福なコミュニティ3Sの構築」報告会に参加(11/18 4人)

・ロヒンギャ弾圧報告会に参加(4/14 2人) ・ロヒンギャ緊急報告会に参加(10/5 3人)

・認定NPO法人 FoEJapan 報告会「福島のとエネルギーの未来」協力団体となりました(7/29 5人参加)

・アフガニスタン支援先の現地スタッフ来日報告会に参加(2/16 1人)

②BGAのモニタリングツアーに参加しました(10月 1人)

③アジア学院スタディツアーを計画していましたが、アジア学院側の事情で実行できませんでした。

## 3)フェアトレード

フェアトレードに関する市民の関心を高めるために天王町店でフェアトレードフェアを2回開催しました。

同時に東北支援品の販売も行いました。

・年間目標額を35万円 累積売り上げ 371,743 円(年間達成率 106 %)

・フェアトレードフェア実績: 5月 56,887 円(目標 5 万円 東北支援品含む)

12月 19,944 円(目標 5 万円 東北支援品含む)

※12月は東北支援品販売は行いませんでした。

・フェアトレード品常設品:ジンジャーティ(取り組み本数 135 本) オリーブ石けん コーヒー 紅茶

【日時】 通年

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 理事・ショップスタッフ 13 名

【受益対象者】 市民 支援先の住民

【支出額】 1,392,139 円

### Ⅲ 地域市民の国際的な問題意識の向上を図る事業(共育事業)

世界で起きている問題について自分たちの暮らしとのつながりを学び行動する市民を増やすために、学習会や企画を開催しました。

#### 1) WE 講座の開催

WE21ほどがやの活動である資源のリユース・リサイクル事業、民際支援事業や環境、平和を守る活動について理解を深める場として、地域市民に向けて WE 講座を4つの内容で 12 回開催しました。

##### ①BGA 支援報告会

通常総会の前に、フィリピンルボ村の鉱山開発跡地の環境回復事業についての報告会を開催しました。土壌回復や植林、農地再生などの活動を応援することによって、現地の人々の生計やコミュニティも少しずつ回復していますが、一度破壊された自然を回復するためには長い年月を要するため、継続的な支援が必要です。環境回復の成果や課題を共有するとともに、自分たちの暮らしを振り返るきっかけとなりました。

##### ②みんな de 憲法 in ほどがや

現政権のもとで憲法の改正が進められようとしている今、憲法がどのように変えられようとしているのかを知るために、現憲法と自民党草案を読み比べながら皆で考えました。3 回連続で行い、それぞれ活発な意見が飛び交い、関心の高さがうかがえました。生活クラブ組合員にチラシを配布して組合員の方が参加し、その後、コモンズでの憲法学習の場につながる成果がありました。

##### ③リメイク連続講座

いただいた寄付品の有効活用とリメイクの楽しさを体験できる場として、7 回の連続講座を開催しました。

##### ④みんなで布チョッキン(認定 NPO 法人 幼い難民を考える会(CYR))

CYR から講師を招いて、現地の状況の DVD をみながらカンボジアの現状について報告してもらいました。その後、布チョッキンのワークショップを開催し、人形 10 体、ボール 20 個のキットを活動募金とともに現地の保育園に送りました。当日は、ショップのお客様などの新たな参加もあり、職業体験中の中学生 4 人も身近なボランティア活動を体験できて、有意義なワークショップとなりました。

開催日	内容	参加人数	開催場所
5/14	<b>BGA 支援報告会</b> 報告者: 牧島裕子さん	25 人	市民活動センターアワーズ
①9/13②10/19 ③11/17	<b>みんな de 憲法 in ほどがや</b> 進行役: 贅川恭子さん ①憲法前文/天皇/戦争放棄 ②国民の権利及び義務 ③国会/内閣/司法/財政/地方自治など	①19 人 ②18 人 ③13 人	保土ヶ谷公会堂 市民活動センターアワーズ
①9/6 ②9/20 ③10/4 ④10/18 ⑤10/9 ⑥10/24 ⑦2/17	<b>リメイク連続講座</b> 講師: リメイクチーム ①②T シャツより布ぞうりづくり ③④羽織から上着 ⑤⑥綿シャツから裂き織り ⑦交流会〈作品の共有と小物づくり〉	①9 人 ②6 人 ③8 人 ④6 人 ⑤6 人 ⑥4 人 ⑦15 人	市民活動センターアワーズ
1/24	<b>みんなで布チョッキン</b> 認定 NPO 法人 幼い難民を考える会(CYR) 講師: 鎌田苑子さん	20 人 (岩崎中学校職業体験生 4 人)	保土ヶ谷公会堂会議室

## 2) 環境、平和を考える企画・イベントの開催

### ①「貧困なくそうキャンペーン(10/2～17)」

SDGs(持続可能な開発目標)への理解を進めるための学習会を開催、ボランティア、スタッフ、理事が参加し、チラシを早めに配布してショップでのアピールにつなげました。貧困が起こる社会の仕組みの図説をショップに掲示し、SDGsのパネルを使ってシールアンケートを行い、期間中に来店したお客様に17項目の中から自分の関心のある項目にシールを貼ってもらいました。しかし SDGsの認知度が世間的にまだまだ低いことから、振り返りでは貧困撲滅とSDGsを関連づけるアピールは難しかったという意見がでました。貧困撲滅デーである10月17日の売上全額を認定NPO法人自立生活サポートセンターもやいに寄付しました。店頭募金、本の寄付(チャリボン)も行いました(総額 83,583 円)

### ②「3. 11を忘れない」

東日本大震災から7年。復興支援の思いを風化させないように、2017年度も引き続き、毎月11日の売上の30%、3月9日(星川店)、10日(天王町店)の売上全額を、福島原発事故で被災した子どもたちの保養プログラムを実施している認定NPO法人FoEJapan「福島ぽかぽかプロジェクト」に寄付しました。年間を通して店頭募金も行いました。(総額 237,850 円)。

3月は東日本大震災復興支援として、気仙沼の(有)ムラカミの海産物の物品販売を行い、好評でした。

### 3)寄付文化を広げる

国を超えて市民が協力するたすけあいの文化を広めるために「アジア・友だち・みらい貯金箱」を総会などで配布しました。2017 年度から WE21 ジャパン地域 NPO のなかで立ちあがった JVC アフガニスタン連絡会に参加し、情報を共有しています。

貯金箱 8 個(44,268 円)を「JVC アフガニスタン教育支援プロジェクト」に寄付しました(3 月)

### 4)キャンペーンへの賛同、提言活動への参加

社会的な課題解決のために、キャンペーンへの賛同、提言活動に取り組みました。

- ・「共謀罪法案」に反対の共同声明に賛同(4 月)
- ・「モザンビーク・アフリカ開発会議参加希望者へのビザ発給措置について再考を求める声明に賛同(8 月)
- ・「考えよう 食べること 捨てること」～いま私たちにできることは？～(主催:横浜資源循環局)に参加(10/1 5 人)
- ・「神奈川県県民局廃止に反対する陳情書」を神奈川県議会総務政策常任委員会に提出(12 月)
- ・フィリピンヤマンの小学生にクレヨンをプレゼントする「レインボーキャンペーン」に賛同(12 月、1 万円)
- ・学習会「現実化する憲法改正に向き合う」(主催 WE21 ジャパン)に参加(3/7 4 人)
- ・「フードバンクかながわ設立記念フォーラム」に参加(3/11 2 人)
- ・「憲法を生かす全国統一署名 安倍 9 条改憲 NO 全国市民アクション」に参加(2~4 月)

【日時】 通年

【場所】 主に横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】 理事・ショップスタッフ 13 名

【受益対象者】 市民、支援先の住民、会員、ボランティア

【支出額】 9,810 円

## IV WE21ほどがや事業の広報普及を図る事業(広報事業)

WE21 ジャパン・ほどがやの活動の理解を広めるために地域市民への情報の受発信の充実に努めました。

お客様、寄付者を増やすためにチャリティショップとしての付加価値を市民に伝えることが必要です。

### 1)ほどがやニュースの発行

- ・①58 号 7 月 ②59 号 10 月 ③60 号 3 月 各 1500 枚発行しました。カラー化したことにより、写真を見る楽しみが増え、紙面が読みやすくなったと好評です。
- ・広報チーム5人が中心となり、ニュース作成における紙面レイアウトから執筆、校正までスピーディに段取りよく行うように努めました。

### 2)チラシの作成

三つ折りパンフの内容を見直し、作成しました。

イベントチラシは、イベントの趣旨が伝わるように、ショップスタッフと広報担当が連携を密にして、より効果的なチラシを作成し、タイムリーに配布することが必要です。

- ・生活クラブ生協 保土ヶ谷/西 commons 組合員へ、チラシを組み込み配布しました(みんな de 憲法、スタッ

フ募集 1,800 枚ずつ)

・着物フェアチラシ 3000 枚を地域に配布しました。

### 3) 展示パネル・ポスター

貧困なくそうキャンペーンは支援チームで内容を検討してパネルを作成しました。

ショップの活動を知らせる効果的な A 看板の活用と、効果的なアピールコーナーを設置するのが課題です。

### 4) ホームページの改訂

「ワーカーズコレクティブほっとリンク」と、ホームページ作成及び管理の契約を結び、ホームページを改訂しました。タイムリーな発信を心がけていきます。

### 5) 地域への情報

・タウンニュースへの掲載(3月着物フェア 3.11 を忘れない)

・OURS 情報誌への掲載(3 月着物フェア)

地域への情報発信に効果的な情報媒体の発掘が必要です。

### 6) その他 新しパソコンを購入し、天王町店に設置しました(12 月)

【日時】 通年

【場所】 主に横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】 理事・ショップスタッフ・広報チーム 15 名

【受益対象者】 市民

【支出額】 238,282 円

## V 事業を実践するための組織活動

### 1) 理事会

① 理事会を定例開催して総会の議案に沿った運営や事業を行い、経営基盤を高めることを目指しました。

② ショップ運営やリメイク活動、支援先決定、WE 講座開催、広報事業とそれぞれのチーム・部会等の担当のもとに活動し、効率的な運営を目指しました。

③ 県指定 NPO 法人の再申請を行い、賛同署名 138 筆集めました。12 月に更新の答申を受けました。

④ 認定 NPO 法人としての特性を生かした寄付金呼びかけなど、積極的な広報活動はできませんでした。

⑤ 個人情報保護法が適用されるにあたってのルールを確認を行いました。

### 2) 会員

① 正会員拡大目標 : 個人(年間 2,000 円) 58人 (目標 70 人)

団体(年間 10,000 円) 1 団体

② 賛助会員拡大目標: 個人(年間 500 円 一口以上) 18 人

団体(年間 3,000 円) 0

会員・賛助会員には、ほどがやニュースと年次報告書、めぐりめぐる、イベントチラシなどを送付し、活動情報を伝えました。新たな会員拡大はできませんでした。

### 3) ショップスタッフ・事務局スタッフとの雇用契約と人材育成

- ① ショップスタッフ・事務局スタッフと雇用契約を結びました。10月1日から神奈川県最低賃金改定 956 円に準じてスタッフの賃金を改定しました。
- ② 雇用契約書、給与規定、就業規則の整備を行いました。
- ③ スタッフミーティングは毎月開催しました。合同スタッフミーティングは 2 月 21 日に開催し、2017 年度の振り返りと経営分析、ショップの課題、対策などを話し合いました。
- ④ スタッフ研修はできませんでした。次年度の検討課題とします。
- ⑤ 持続的なショップにするためにショップスタッフ 2 名の募集をしました。応募はありましたが採用に至りませんでした。

### 4) ボランティア参加

- ① 新たなボランティアの拡大は進みませんでした。ボランティアとして参加したくなるようなショップづくり、ボランティア参加を引き出す仕組み作り、呼びかけ方法が課題です。
- ② 星川店のボランティアミーティングで WE ショップ大倉山店、日吉店を見学しました(9/30 10 人)  
店内レイアウトやボランティアとの連携方法などを学び、その後の活動に生かすことができました。
- ③ ボランティア親睦会「わろてんか新年会」を実施し、落語鑑賞・ランチ会のプログラムに 17 人が参加し親睦を深めました (2/10)

### 5) 研修会への参加

組織の充実のために各種研修会に参加し情報を得ました。

- ・WE21「新しいスタッフ・ボランティア・理事対象の基礎研修」に参加(6月 1人)
- ・WE21「働き方と就業ルールの研修」に参加(6/20 2人)
- ・チャリティーショップフォーラム(日本チャリティーショップネットワーク主催)に参加(1/27 2人)
- ・WE21 監査学習会に参加(1/18 3人)

### 6) WE21 ジャパン、他地域 NPO との連携

- ① WE21 ジャパンとは事業の受託、委託に関する基本契約を結び、他地域 NPO とも連携して WE21 ジャパングループとして運動を広めました。
- ② 横浜南エリア代表連絡会、中央エリアスタッフ会議、WE21 リメイク連絡会に参加し、情報を共有し、共通の課題解決に向けて話し合いました。
- ③ 「W フェスタ秋」実行委員会に参加しました。WE フェスタ当日(11/9 産業貿易センター)は、WE21 ジャパングループ総体の活動を知る目的でショップは休業し、14 人が販売・リメイク・民際協力ブース、ステージプログラム「WE コーデ」にボランティア参加しました。

## 7)地域のネットワーク

チャリティショップとして認知度をあげるため、地域の団体・外部との連携を図りました。

- ①Yokohama 学校地域コーディネータフォーラムに WE の活動報告者として参加しました(9/9 2 人)。
- ②地域づくりプロジェクト「ほ도가や楽考」に WE の活動報告者として参加しました(9/16)。
- ③街の学習応援隊活動 PR 展にリメイク品を展示しました(9/29～10/12)。
- ④ほ도가や生涯学習フォーラムまなぶん祭り(11/11) 参加団体として、活動紹介と古布を使ったロール  
ネックレスづくりで体験ブースに参加し 27 人が体験しました。
- ⑤生活クラブ運動グループ「保土ヶ谷・西まちづくり協議会」に参加し、相互の活動の共有を図りました。
- ⑥ほ도가や市民活動センターアワーズの協働運営会議に参加し、利用者交流会に参加しました。
- ⑦保土ヶ谷区魅力ある地域まちづくり事業「ほ도가や 人・まち・文化振興会」に参加しました。
- ⑧「ラポール三ツ沢みんなの会」に保土ヶ谷区・西区地域連携ビジョンの団体として参加しました。
- ⑨中学生職業体験受け入れを行いました(1/23～26 橘中学校 4 人 岩崎中学校 4 人)
- ⑩就労支援の受け入れを行いました。
- ⑪横浜市内在住 65 歳以上の方対象の割引制度「濱ともカード」、横浜市子育て家庭応援事業「ハマハグ」  
の協賛店を継続しました。

【日時】 通年

【場所】 主に横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】 理事・ショップスタッフ 13 名

【受益対象者】 市民、会員、ボランティア

【支出額】 920,725 円